

## CHAPTER 5

# 管理インターフェ이스の接続

この章では、SCE8000 サービス コントロール モジュール (SCE8000-SCM-E) をローカル コンソールに接続し、自動で実行されるセットアップ ウィザードにより、初期システム設定を実行する方法について説明します。

また、ギガビット イーサネット管理インターフェ이스のケーブル接続についても説明します。

コンソール インターフェイス (CON) およびギガビット管理インターフェイス (Port1) は、Cisco SCE8000 シャーシの slots 1 の SCE8000-SCM-E 上にあります (「サービス コントロール モジュール: SCE8000-SCM-E」(P.2-3) を参照)。

- 「ローカル コンソールの設定」(P.5-1)
- 「初期設定パラメータ」(P.5-2)
- 「管理インターフェイスの接続」(P.5-4)

## ローカル コンソールの設定

リモートの位置から Cisco SCE8000 を管理する場合でも、まずローカル コンソールに装置を接続して Cisco SCE8000 の初期設定を行い、リモート管理がサポートされるようにする必要があります。初期接続を確立したら、セットアップユーティリティが自動的に起動し、初期システムの実行を求めるプロンプトが表示されます。

ここでは、セットアップユーティリティを使用して Cisco SCE8000 システムの初期システム設定ができるように、ワークステーションのローカル端末を設定する手順を示します。

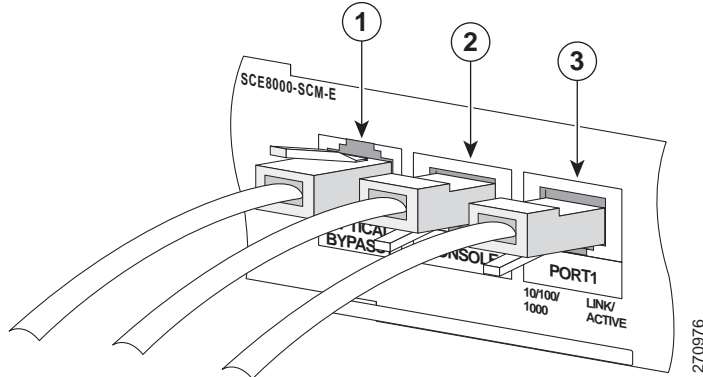
端末が次のように設定されていることを確認します。

- 9,600 ボー
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 1 ストップ ビット
- フロー制御なし

上記の Cisco SCE8000 ポート パラメータは固定されていて、設定を変更することはできません。

- ステップ 1** Cisco SCE8000 に付属している RS-232 シリアル ケーブルを SCE8000-SCM-E の前面パネルにある CON ポートに接続します (図 5-1 の 2 番)。

図 5-1 ローカル コンソールと SCE8000-SCM-E CON ポートの接続



RJ-45 コネクタ (RS-232 シリアル ケーブルに装着) が完全に挿入され、カチッという音がしてレセプタクルに固定されるまで、コネクタを押し込みます。ゆっくりとプラグを引っ張り、プラグがソケットに固定されているかどうかを確認します。

- ステップ 2** シリアル ケーブルの他端 (DB-9 または DB-25 コネクタが装着) を VT100 互換のローカル (シリアル) 端末に接続します。
- ステップ 3** ローカル端末が、固定された Cisco SCE8000 CON ポート パラメータに従って、VT-100 端末として設定されていることを確認します。
- ステップ 4** Cisco SCE8000 の電源がオンになり、起動が完了していることを確認します (起動には数分かかることがあります)。
- ステップ 5** ローカル端末にシスコのロゴが表示されるまで、Enter を何度か押します。

## 初期設定パラメータ

この時点で、SCE プラットフォームが外部と適切に通信するためには、基本的なグローバル パラメータが正しく設定されている必要があります。次に、初期設定パラメータとコマンドを簡単にまとめます。詳細については、『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』を参照してください。

- Cisco SCE8000 プラットフォーム自体の IP アドレスおよびサブネット マスク。これは、GBE 管理インターフェイスで使用する IP アドレスです。
- デフォルト ゲートウェイの IP アドレス
- ホスト名 : SCE プラットフォームの識別に使用されます。ホスト名は CLI プロンプトの一部として表示され、MIB-II の sysName オブジェクトの値としても返されます。
  - ホスト名の最大長は、20 文字です。
  - デフォルトのホスト名は *SCE8000* です。
- user、admin、および root レベル アクセスの各パスワード。これらは承認レベルのパスワードであって、個別のパスワードではありません。これらのパスワードは暗号化することができます。

パスワードは次の基準を満たしている必要があります。

- 最小：4 文字
  - 最大：100 文字
  - 英文字で始める
  - 出力可能な文字のみを使用する
- すべてのレベルのデフォルト パスワードは、*cisco* です。
  - システム クロック：現在の日付と時刻。クロックとカレンダーは必ず同期している必要があります。
  - 時間帯：時間帯の名前または ID、および UTC からのオフセット時間数
  - ドメイン ネーム サーバ：デフォルトのドメイン名（非限定型のホスト名を完成させるために使用）および最大 3 つまでのドメイン ネーム サーバ（DNS lookup に使用）  
DNS lookup もイネーブルにする必要があります。
  - RDR フォーマッタの宛先：SCE プラットフォームは Raw Data Record (RDR) を生成し、指定された宛先（外部の収集システム）に RDR フォーマッタを経由して送信します。RDR フォーマッタの宛先は最大 8 つまで設定できます。各宛先の IP アドレスおよびポート番号を指定します。

表 5-1 に、現在の設定値を表示するコマンドと、パラメータを設定するコマンドを示します。各コンフィギュレーション コマンドのコマンド モードも示します。すべての **show** コマンドは、ユーザ EXEC コマンド モードで実行します。

表 5-1 初期設定構成

パラメータ	show コマンド	コンフィギュレーション コマンド	コンフィギュレーション コマンド モード
管理 IP アドレスおよびサブネット マスク	<b>show interface GigabitEthernet 1/1 ip address</b>	<b>ip address x.x.x.x subnet-mask</b>	ギガビットイーサネット インターフェイス コンフィギュレーション
デフォルト ゲートウェイ	<b>show ip default-gateway</b>	<b>ip default-gateway x.x.x.x</b>	グローバル コンフィギュレーション
ホスト名	<b>show hostname</b>	<b>hostname host-name</b>	グローバル コンフィギュレーション
承認レベル パスワード	なし	<b>enable password level level [encryption-type] password</b>	グローバル コンフィギュレーション
クロック	<b>show clock</b> <b>show calendar</b>	<b>calendar set hh:mm:ss day month year clock read-calendar</b>  または <b>clock set hh:mm:ss day month year clock update-calendar</b>	特権 EXEC
タイムゾーン	<b>show timezone</b>	<b>clock timezone zone-name offset-hours</b>	グローバル コンフィギュレーション
ドメイン ネーム サーバ	<b>show hosts</b>	<b>ip domain-lookup</b> <b>ip domain-name domain-name</b> <b>ip name-server server-address1 [server-address2] [server-address3]</b>	グローバル コンフィギュレーション
RDR フォーマッタの宛先	<b>show rdr-formatter destination</b>	<b>rdr-formatter destination ip-address port port-number</b>	グローバル コンフィギュレーション

## 管理インターフェ이스の接続

SCE8000-SCM-E は、RJ-45 のアクティブな管理ポートを 1 つ備えています。このポートを使い、リモート管理コンソールから LAN 経由で Cisco SCE8000 にアクセスできます。

ここでは、GBE 管理ポートのケーブル接続手順、および Cisco SCE8000 とリモート管理ホスト間の接続テストの手順について説明します。

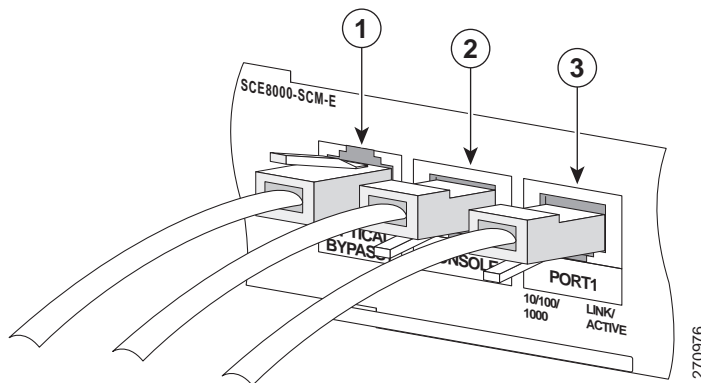
- 「管理ポートのケーブル接続」(P.5-4)
- 「管理インターフェ이스の接続の確認」(P.5-5)

### 管理ポートのケーブル接続

SCE8000-SCM-E には、Cisco SCE8000 シャーシの スロット 1 の位置に、管理ポートとして使用する GBE ポートが 1 つあり、Port1 とラベル表示されています。

- ステップ 1** SCE8000-SCM-E の前面パネルにある Port 1 に、付属の (RJ-45 コネクタ付き) イーサネットケーブルを接続します (図 5-2 の 3 番)。

図 5-2 管理ポートのケーブル接続



- ステップ 2** イーサネットケーブルの他端を管理ネットワークに接続します。

カチッという音が生じて、RJ-45 コネクタが完全に挿入され、レセプタクルに固定されるまで、コネクタを押し込みます。ゆっくりとプラグを引っ張り、プラグがソケットに固定されているかどうかを確認します。

ポートの LINK LED が点灯しない場合は、ケーブルを取り外して、モジュールソケットにしっかりと装着し直します。ソケットからプラグを外す場合は、プラグ上部の高い部分を押し下げて、ラッチを解除します。カチッという音がすれば、ラッチは解除されています。慎重にソケットからプラグを引き抜いてください。

装着し直しても LINK LED が点灯しない場合は、反対側の適切なネットワーク要素にケーブルが正しく接続されているかどうかを確認します。

## 管理インターフェイスの接続の確認

Cisco SCE8000 プラットフォームに電源を投入した後、Cisco SCE8000 とリモート管理ホストの間で接続が確立されているかどうかを確認するテストを行ってください。SCE8000 プラットフォームに電源が投入されていない場合は、Cisco SCE8000 プラットフォームを起動してから、この手順を実行します。

- ステップ 1** GBE 管理ポートとネットワークをケーブルで接続したら、関連する Mng ポートの LED を調べます。GBE LED は、LINK/ACTIVE と 10/100/1000 の 2 つがあります（「サービス コントロール モジュール : SCE8000-SCM-E」(P.2-3) を参照）。
- この時点で、LINK/ACTIVE LED がグリーンであるかを確認してください。
- 10/100/1000 LED の状態は、次のようにイーサネット ネットワーク設定によって変わります。
- オフ : 10 Mbps
  - グリーン : 100 Mbps
  - オレンジ : 1000 Mbps
- ステップ 2** 接続をテストします。リモート管理に使用するホストから Cisco SCE8000 に ping を実行します。ping を実行するには、ping の後に Cisco SCE8000 IP アドレスを入力して、Enter を押します（次の例を参照）。



(注) リモート管理ホスト (LAN で Mng ポートに接続) から実行するのは、このステップ (ステップ 2) だけであることを注意してください。

これにより、指定されたステーションと管理ポート間にアクティブな接続が存在することが確認されます。

ping コマンドは IP アドレスにエコー要求パケットを送信し、応答を待機します。ping の出力を確認することで、パス/ホストの信頼性、パス上の遅延、およびホストへの到達可能性やホストの機能を評価することができます。

例 :

次に、ターゲット IP アドレスが 10.10.10.20 である場合の一般的な ping 応答を示します。

```
C:\>ping 10.10.10.20
pinging 10.10.10.20 ...
PING 10.10.10.20: 56 data bytes
64 bytes from host (10.10.10.20): icmp_seq=0. time=0. ms
64 bytes from host (10.10.10.20): icmp_seq=1. time=0. ms
64 bytes from host (10.10.10.20): icmp_seq=2. time=0. ms
64 bytes from host (10.10.10.20): icmp_seq=3. time=0. ms
----10.10.10.20 PING Statistics----
4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss
round-trip (ms) min/avg/max = 0/0/0
```

